

《沖縄協同病院の理念》

- 人権といのちの尊厳を守る、無差別平等の医療を行います。
- 地域と共に平和で健康に暮らせる、まちづくりを行います。

はいさい

《沖縄協同病院医師研修理念》

- 基本的診療能力を身につけることを第一の目標とし、患者を「一人の人間」として捉え、「患者の幸せ」を追求できる医師を養成します。

当院泌尿器科の共同研究が 間質性膀胱炎の病態解明に貢献

— 間質性膀胱炎の研究で日本排尿機能学会の学会賞を受賞 —



泌尿器科部長
か かわ かつみ
嘉手川 豪心

10月15日～10月17日に開催された日本排尿機能学会において間質性膀胱炎(かんしつせいぼうこうえん)に関する研究で学会賞を受賞しました。

間質性膀胱炎は膀胱痛と頻尿により生活の質を著しく低下させる難病の一つで、沖縄県では約60名の患者様が苦しんでいます。その原因(病態)が分かっていないために有効な薬物治療がなく、根本的治療法がないのが現状です。当院泌尿器科ではバイオベンチャー会社であるサザンナイトラボラトリー社、および琉球大学との共同研究を通して間質性膀胱炎の病態解明に取り組んできました。

これまで、間質性膀胱炎は膀胱の間質(粘膜と筋肉の間)に炎症が起きて発症すると考えられていました。しかし、今回の研究でストレス顆粒という物質に注目してモデルラットで組織学的に検討したところ、ストレスのかかった細胞だけに発現するストレス顆粒は膀胱粘膜と血管だけに存在し、間質には認められませんでした。そのため、病態解明のカギは間質ではなく膀胱粘膜と血管であることが世界で初めて確認されました。今回の研究成果が沖縄発の情報として発信され、新たな視点で間質性膀胱炎の病態や治療法の解明が進んでいくことが期待されます。

昨今のコロナ禍において明るい話題が少ない沖縄県ですが、間質性膀胱炎の患者様、県民や病院スタッフが少しでも元気になる話題として今回の受賞が貢献できれば幸いです。



コロナに負けない! 応援 ありがとうございます

この度、沖縄協同病院での院内感染(病院クラスター)で患者さん及びご家族、組合員の皆様方に多大なるご迷惑、ご心配をおかけし深くお詫び申し上げます。

さて、8月17日に発生した院内クラスター以降は全国の民医連の仲間からの応援メッセージが多数届き、元気づけられています。院内クラスター終息に向けて奮闘中であつた9月半ばに、お隣の古蔵中学校・体育館の窓に「医療従事者の皆様、いつもありがとう」の手書きのメッセージを見つけました。緊迫した状況のなかで緊張や不安を抱えながら最前線で活動している職員に、中学生のやさしい思いやりの気持ちは大きく伝わりました。お返しとして、私たちの決意とこの間の支援のお礼を込めて、玄関前に「コロナに負けない! 応援ありがとうございます!」の懸垂幕を設置しました。終息の糸口が見えず不安な状況が続きますが「地域の人たちの生命と健康を守る」という責務を果たすため職員一同頑張る決意です。引き続き、応援をよろしくお願いします。

事務管理部 松田 南海男



病院の活動状況 <2020年9月度>

- ・外来一日平均患者数: 238人 (前年同月比 -166人)
- ・入院一日平均患者数: 204人 (前年同月比 -101人)
- ・組合員利用分量(率): 61.8% (前年同月比 +6.1%)

膵癌と超音波内視鏡(EUS)

いっしょに

171 消化器内科より



悪性新生物、いわゆる癌は、日本人の死因第一位となっていることは皆さんご存じかと思えます。日本では年間約三十七万人が癌により命を落としており、これは全

死因の約30%を占めています。日本人の二人に一人は生涯に一度は癌に罹患するとも言われています。原因別にみると肺癌が最も多く、続いて大腸癌、胃癌、膵癌、肝癌と消化器癌が上位を占めています。この中でも膵癌は難治癌として有名であり、五年生存率はわずかに10%程度ととても低く、その原因として早期発見の難しさが挙げられます。

膵癌の診断には、腫瘍マーカーの測定、腹部超音波、CT、MRIなどの画像検査を組み合わせて行われます。また確定診断のためにはERCP(内視鏡的逆行性胆膵管造影) および膵液細胞診が行われます。

微小膵癌の早期発見のために開発されたのが超音波内視鏡(EUS)です。EUSは検診で使用する内視鏡とは異なり、先端に超音波が取り付けられた特別な内視鏡になります。胃や十二指腸から超音波をあてて膵臓を詳細に観察することが可能です。さらにコンベックス型EUSでは腫瘍を直接穿刺し細胞診を得ることが可能です(超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診: EUS-FNA)。

膵癌の早期発見のためには検診が有効です。また、膵癌のリスクを知っておく必要があります。膵癌のリスク因子としては、家族に膵癌に罹患した方がいる(家族歴)、糖尿病、慢性膵炎、膵嚢胞、肥満、嗜好として喫煙、大量飲酒歴が挙げられます。これらのリスクがある方は膵癌の罹患に注意し慎重に経過観察する必要があります。

当院では二〇二〇年九月よりコンベックス型EUSを購入しました。リスクのある患者に対しては希望があればEUSを行い、膵癌の早期発見・早期治療に努めてまいります。

消化器内科 永村良二

コロナ禍 シールド越しに対応する 医療事務課職員①



画・内科医 上原 和博



<ご意見・ご要望>

結論：本日、救急で対応した男性看護師は患者を客だと思っていない。『患者様(お客様)』の認識が無い。そのため来訪患者をないがしろにし、蔑んで対応している。不愉快である。

- | | |
|--------------------------------|----------------|
| (協同病院職員の言葉) | (私の気持ち) |
| ①『救急車も対応していますから』 | ⇒ 言い訳は聞きたくない |
| ②『1時間後にきてもすぐにできる
とは限りませんよ!』 | ⇒ 物の言い方考えて下さい。 |

他にもいろいろ

<お返事>

この度は、職員が大変失礼な対応で不快な思いをさせてしまったこと、誠に申し訳ありません。ご指摘頂いた点に関して厳重に注意致しました。

救急搬送患者の対応で待つ頂くこともあることをお伝えしたかったようですが、不適切な言葉遣いに弁解の余地もありません。職員への指導の不行き届きが原因であります。今回のお叱りを貴重な教訓として職員教育に努めます。

貴重なご指摘ご意見、ありがとうございます。

救急センター師長 長嶺 さかえ

2020年10月より

インフルエンザワクチンの接種を始めています

接種期間：2020年10月1日～2021年1月29日

◇小児科・産婦人科は各科での接種、その他の方はワクチン外来での接種となります。

※小児科での接種は希望日2日前までにご予約ください。その他の方は予約の必要はありません。

◇今年は65歳以上・公費補助対象の方から、各市町村のお知らせに沿って行っています。市町村から送付された予診票に記入後、ご持参ください。

◇65歳未満の方は当院にて受け取り、またはホームページよりプリントした予診票をご使用ください。事前に記入され、ご持参をお勧めいたします。

※記入にお困りの際は、職員にお声かけください。

◇当院または他院で通院中の患者さま、投薬を受けている患者さまは、主治医に接種可能であることをご確認ください。

*接種期間内でもワクチンがなくなり次第終了となりますことをご承知ください。

【インフルエンザワクチン外来】

(月～金、土 午前)

受付時間 【午 前】 8:30 ～ 11:00
接種開始 9:00 ～
【午 後】 13:00 ～ 15:30
接種開始 13:30 ～

場 所 ワクチン外来

接種料金

- | | |
|-------------|--------|
| 1. 一般外来患者さま | 4,000円 |
| 2. 組合員さま | 3,200円 |
| 3. 入院中の患者さま | 2,700円 |

※公費補助対象の方は、その規定に沿った対応になります。



玄関先で出会った少しだけいい話 コロナ禍での面会

9月の暑い午前中。病院の玄関横で80代のご夫婦が手を握りながら「お父さん寂しい思いをさせてごめんなさい長いこと会えなくて私もつらかった」と涙している側で娘二人が両親を見守っていた。その姿にもらい泣きをしてしまった。

リクライニングの車いすの男性は施設入所中に当院に入院となり退院日のつかの間の面会だと知った。介護タクシーの運転手はわずかな時間、ご家族の面会を静かに見守っていた。

新型コロナの流行で施設や病院は面会禁止であり。やっと面会でできた安心した家族の姿を見届けて介護タクシーとご家族の車を見送った。病院や施設はスタッフ全員が感染対策に余念がない。利用者も手指の消毒やマスクの着用、社会的距離をとるなど三密を避け我慢しながらコロナ禍を過ごしている。本来なら家族や友人は病室や施設内で自由に面会ができるはずなのに皆が自粛し我慢している。一日も早いコロナの収束を願いたいものである。

コロナ禍で我慢しているのは患者様だけでなく私たち皆が我慢の生活を送っている。go toキャンペーンが始まったとは言え怖くて旅行にも行けず美味しいものも食べに外出に外食に出られずストレスも閾値を超えてしまいそうな時、今朝の御家族や運転手の優しさに触れてほっこりと心が温まりました。

門前チーム 屋良 和子



ハルサー 金城 稲子

ハルサー だより ㊦

冬野菜の植え付け

私の地域ではトマトは100%ハウス栽培である。私が小さい頃のトマトは100%露地栽培だった。暑い夏にたわわに実っている赤い実を、背伸びしてもぎとって食べた味と畑の光景は忘れ

ない。ハウス栽培になって旬が冬になった。時を経て旬が変わらないのは露地植えの冬野菜だ。私は自家消費用に毎年十種類以上の冬野菜を栽培している。キャベツ類、レタス類、ネギ類、ジャガイモ等だ。今年は十月下旬まで一カ月以上雨がなかった。そのため、植え付けができずに苗も伸び放題だったが、やっと十月の後半にまとまった雨が降った。早速種苗店に行ったら、三十人待ちでやっと数種類の苗を手に入れた。みんな毎日天気予報を見て一憂していたに違いない。

さて、コロナウイルス感染者は世界で四千万人を超え、感染拡大はとどまるところを知らない。そんな中、アニメ映画「鬼滅の刃」が公開十月十六日(日)から三日間で興行収入四十六億円、観客動員三百四十万人という記録を打ち立てた。これは日本以外の全世界の映画売上合計を上回っているという。この成功はもちろん作品そのものの人気によるものだが、コロナ禍でも映画館に足を運ぶのは、日本人の「他人に迷惑をかけない」という教えと映画館の感染防止対策を信用しているからだと思う。映画館ではマスク着用、検温、換気等のほか、曜日ごとに客数を半分にしたり、マスクを外させないために全席開放する代わりに食べ物販売を停止するというガイドラインを厳守しているようだ。このような感染対策の徹底で「三密」でも拡大が防止できることが証明されれば、コロナという鬼を滅する日はそう遠くはない。